

令和4年度 加古川市教育委員会不登校対策推進委員会の実施状況

1 加古川市教育委員会不登校対策推進委員会について

○ 活動状況および今後の計画

回	月/日	会場	内容
3	9月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・小中連携の在り方について
4	11月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・気になる児童生徒の現状について
5	2/24（金） <予定>	加古川市役所北館	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・各校の不登校対策の実践について ・小学校から中学校への引継ぎについて

○ 第3・4回を振り返って

中学校区ユニットごとに小・中学校の不登校担当が集まり、不登校傾向にある児童生徒の具体的な状況や各学校における支援の現状について情報共有をおこなった。特に小・中学校間での縦の連携を狙いとしており、兄弟・姉妹間の情報共有を行うことで、家庭の状況などについても共通理解を図ることができた。

また、複数回対面で開催したことにより担当者同士の連携も深まり、対象児童生徒についての対応や支援策の協議がより活発に行われた。そこにスクールソーシャルワーカーやメンタルサポーターも参加することによって多面的、多角的な視点からの支援策が話し合われたユニットもあった。今後も可能な限り、関係する職員の参加を促していきたい。

○ 第5回について

昨年度はコロナ禍のため、リモートでの代表3ユニットによる実践発表のみの開催となった。今年度は代表3ユニットによる実践発表を行い各学校の具体的な取組を共有する予定としている。また、中学校への新入生を中心とした不登校傾向のある児童について、ユニット間で引継ぎを含めた情報交換を行う予定である。

令和4年度 メンタルサポーターの実施状況（12月末現在）【中学校】

1 別室利用状況（のべ人数）

	令和3年度	令和3年度（12月末）	令和4年度（12月末）
合計利用者数	10,793人	7,847人	7,340人
一校当たり月のべ人数平均	74.9人	72.7人	51.0人

2 家庭訪問実施状況（のべ人数）

中学校 学年	令和3年度		令和3年度（12月末）		令和4年度（12月末）	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
1年	56人	0.4人	81人	0.8人	38人	0.3人
2年	247人	1.7人	37人	0.3人	88人	0.6人
3年	313人	2.2人	65人	0.6人	151人	1.0人
合計	616人	4.3人	183人	1.7人	277人	1.9人

3 不登校生徒及び不登校傾向にある生徒の改善状況（のべ人数）

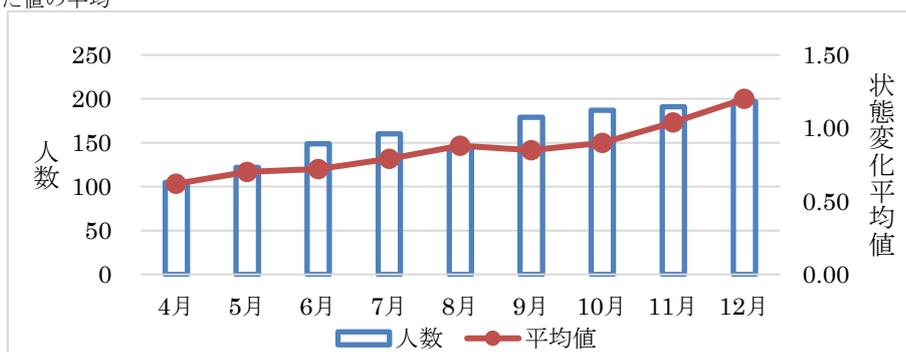
改善内容	令和4年度（12月末）	
	合計	月平均
不登校傾向にある生徒が、主に教室で過ごせるようになった。	308人	34.2人
” 主に別室で過ごせるようになった。	783人	87.0人
” 主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	96人	10.7人
” 主に放課後登校できるようになった。	61人	6.8人
” 主に関係機関等で過ごせるようになった。	152人	16.9人
合計	1,400人	155.6人

4 メンタルサポーターの支援による生徒の状態変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数（人）	105	122	149	160	145	179	187	191	197
平均値	0.62	0.70	0.72	0.79	0.88	0.85	0.90	1.04	1.20

人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

平均値：前月と比較した生徒の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転（+1）」「退転（-1）」「維持（±0）」で数値化した値の平均



5 成果と課題

- 不登校生徒数の増加だけでなく、教室に入りづらかったり、登校しづらかったりする生徒に対して早い段階からアプローチしたことで別室利用生徒が増加している。別室利用生徒にとっての心の拠り所となっている。
- 各学校のメンタルサポーターだけで解決が難しい問題については、学校内での組織対応（スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携）はもちろん、今年度は小学校メンタルサポーターと情報共有して対応することができた。今後は小学校メンタルサポーターとのさらなる連携や、メンタルサポーターが配置されていない小学校との効果的な連携方法について考えていく必要がある。
- 中学校の別室運営については、不登校傾向のある生徒だけでなく、不適応を起こしている生徒の心の安定の場として環境を整えている。常時学校に勤務するメンタルサポーターが中心となって情報交換を行い、生徒に適した支援をすることができた。しかしながら、別室利用生徒の増加に伴い、家庭訪問をする機会の減少や一人ひとりに寄り添った支援が十分にできないことが課題である。

令和4年度 メンタルサポーターの実施状況（12月末現在）【小学校】

1 別室利用状況（のべ人数）

	令和3年度	令和3年度（12月末）	令和4年度（12月末）
合計利用者数			849人
一校当たり月のべ人数平均			35.4人

2 家庭訪問実施状況（のべ人数）

小学校 学年	令和3年度*		令和3年度（12月末）*		令和4年度（12月末）	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
1年					0人	0人
2年					0人	0人
3年					0人	0人
4年					0人	0人
5年					7人	0.5人
6年					9人	0.4人
合計					16人	0.9人

3 不登校児童及び不登校傾向にある児童の改善状況（のべ人数）

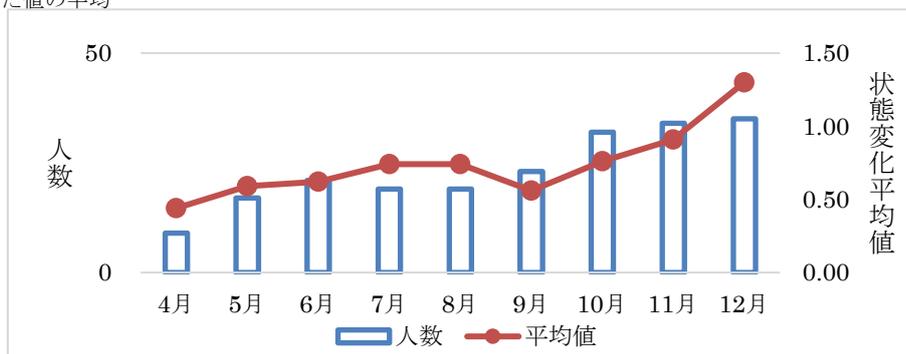
改善内容	令和4年度（12月末）	
	合計	月平均
不登校傾向にある児童が、主に教室で過ごせるようになった。	82人	10.3人
” 主に別室で過ごせるようになった。	53人	6.3人
” 主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	16人	2.0人
” 主に放課後登校できるようになった。	20人	2.5人
” 主に関係機関等で過ごせるようになった。	76人	9.5人
合計	247人	30.6人

4 メンタルサポーターの支援による児童の状態変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数（人）	9	17	21	19		23	32	34	35
平均値	0.44	0.59	0.62	0.74		0.56	0.76	0.91	1.3

人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

平均値：前月と比較した児童の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転（+1）」「退転（-1）」「維持（±0）」で数値化した値の平均



5 成果と課題

- (1) 小学校での別室運営やメンタルサポーターの配置についての理解が浸透し始め、利用者が増加している。また、学級担任と連携しての早い段階での対応を心がけており、状況が好転する児童も増えている。
- (2) 各学校のメンタルサポーターだけで解決が難しい問題については、学校内での組織対応（スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携）はもちろん、今年度は中学校メンタルサポーターと情報共有して対応することができた。
- (3) 心の面での不安だけでなく、学力面の不安を訴える児童も増えており、不登校の要因も多様化している。校内はもちろん、家庭との連携も不可欠であるが、別室利用児童の増加に伴い、家庭訪問をする時間の確保が困難になっている。